जापानी विभाग / Dept. of Japanese
विश्वभारती
Visva-Bharati
भाषाभवन / Bhasha-Bhavana

B.A (Honours) Examination, 2025
Semester III (CBCS)
Japanese
Paper – CC-6
(Advanced Japanese – II)
(Back Candidate Only)

Time- Three Hours **Full Marks- 60**

Questions are of value as indicated in the margin.

問題 I　以下の漢字をひらがなにしなさい。 **1 x 15=15**

1. 知識　2. 戦争　3. 出身　4. 祖母　5. 援助　6. 偶然　7. 独立
8. 若者　9. 公社　10. 老人

以下のをひらがなを漢字にしなさい。

11. じょうほう　12. けいけん　13. うむ　14. しゅうきょう　15. かんり

問題 II　下記のものを使って文を作りなさい。 **2 x 10＝20**

1. ～やら～やら　2. ～から～にかけて　3. ～まま　4. ～たものだ
5. ～ように思う　6. いくら～ても　7. ～と同時に　8. ～ばそれだけで
9. ～つもり　10. ～させられる

問題 III　以下の文を完成しなさい。 **2 x 5＝10**

1. たとえみんなでそうじをしても、あまり＿＿＿＿＿＿＿＿とは思えません。
2. 私の国に山はたくさんあるのですが、＿＿＿＿ほど＿＿＿＿はないでしょう。
3. 私は今度の休みに＿＿＿＿ことにしました。
4. ＿＿＿＿と、＿＿＿＿ようで元気になります。
5. 何があろうと決して＿＿＿＿。

問題 IV　下記の日本語を英語にしなさい。 **5 x 2＝10**

1. 陽一とアンさんから結婚式の招待状が来た。二人とは、学生時代から学部もクラブもずっと同じだったので、家族の誰かが結婚するようで、とてもうれしい。招待状も、昔からの決まった言葉をたくさん並べたものではなく、二人の気持ちを伝える大変いいもので、二人がニコニコしながら「来てくださいね」と言っているようだった。

P.T.O

2. 世界中を旅している人に、どうしたらその土地の人と知り合いになれるのかと聞いてみると、「片言でもいいから、そこの人たちの言葉を話し、一緒におなか一杯食べ、飲むことだ」と言う答えが返ってきた。世界は広いのだから、トマトの皮をむく人もむかない人もいる。皮がついているかいないかは問題ではなく、それよりも、同じテーブルを囲んで、飲み、食べ、一緒に笑うことが大切だ。

問題V　次の文章を読んで、以下の質問に答えなさい。 **5**

この電車を利用していて、いつも気にかかることがある。「この電車は、すべて指定席です。特急券をお持ちでない方はお乗りにならないでください」と何度も繰り返されるアナウンスである。敬語の使い方が間違っているのでも、言い方が失礼なのでもない。文法も正しいし、声も優しい。けれども私には、「乗せてあげるから券を買ってきなさい」と命令されているような感じがする。「お乗りになる前に特急券をお求めください」とでも言えないだろうかと思ってしまう。

ア）特急電車に乗ると、何が気にかかるのですか。 2

イ）電車のアナウンスはどんな感じがすると言っていますか。 1

ウ）特急電車のアナウンスをどのようにした方が良いと言ってますか。 2

＊＊＊＊＊

जापानी विभाग / Deptt. of Japanese
विश्वभारती
Visva-Bharati
भाषाभवन / Bhasha-Bhavana

B.A. (Honours) Examination, 2025
Semester-III
Japanese
Paper CC-7
[Techniques of Translation]

Time: Three Hours **Full Marks: 60**

Questions are of the value as indicated in the margin.

問題 I. 次の和文章(A)(B)(C)を英文章に訳し、英文章(D)(E)を和文章に訳しなさい。 **12X5=60**

(A)

雨がたくさん降ると、「土砂災害」で山や崖などが崩れることがあって、危険です。土砂災害の前には、山から変な音が聞こえたり、小さい石が落ちてきたりすることがあります。山に割れ目ができたり、突然、土から水が出てきたりすることもあります。このようなときは、すぐに安全な場所に避難しましょう。逃げることができない場合は、丈夫な建物の２階以上で、山から遠い部屋にいてください。

雨がたくさん降って災害が起こりそうな場合、気象庁は「大雨注意報」を出します。もっと大きな災害になりそうな場合は「大雨警報」を出します。もっと雨がひどくなりそうな場合は「大雨特別警報」を出します。

この情報はテレビやインターネットなどで知ることができます。避難の情報が出ても、暗くて危険なときや、道が川のようになって外に出ることが難しいときは、建物の２階以上にいたほうが安全なことがあります。

(B)

自分の今までやってきた食べ方、料理のし方と違えば、少しおかしいと思うのは当たり前のことだが、その理由をよく考えてみると、ただ慣れていないだけということが多い。最初は変だと思っても口にしてみると、思っていたよりおいしかったということもよくある。

世界中を旅している人に、どうしたらその土地の人と知り合いになれるのかと聞いてみると、「片言でもいいから、そこの人たちの言葉を話し、一緒におなか一杯食べ、飲むことだ」という答えが返ってきた。世界は広いのだから、トマトの皮をむく人もむかない人もいる。皮がついているかいないかは問題ではなく、それよりも、同じテーブルを囲んで、飲み、食べ、一緒に笑うことが大切だ。そうすれば、特別な努力をしなくても、いい友達を作ることができるということなのだろう。

(C)

日本はアジア大陸の東にある島国である。北海道、本州、四国、九州の四つの島と、四千ほどの小さな島がある。このような島の全体は日本列島と呼ばれている。この日本列島は、北東から南西にかけて弓のような形に並んでいる。北の端から南の端までの長さはだいたい三千キロぐらいある。

地図を見ればわかるように、日本は山地が多い。ほとんど火山活動でできたものである。海岸のそばまで山地が続いている所が多く、あまり大きな平野はない。人が生活できるような平野の部分は、全体の三割程度であり、そこに大部分の人が集まって生活している。

本州の中央には高い山が並んでいる。二千メートル以上の山も多い。ここから流れている川は短く、流れも急である。例えば、日本で一番長い信濃川（しなのがわ）でも三百七十キロ程度である。世界一長いアフリカのナイル川と比べると、十八分の一しかない。

(D)

Bobby made a big red, white and blue kite. When finished,he smiled at it.
"You are beautiful and I will call you Sundari," he said.
One day, Bobby took Sundari to the fair.
The band was playing and everyone was smiling.
A merry-go-round was playing a happy little tune. It was carrying lots of boys and girls round and round on its wooden animals. Bobby looked for an open space where he could run and fly his kite.
Out in the grass ran Bobby, holding up his kite as high as he could.
Puff! The wind came along. Sundari started to fly up! But she could not go very high. A little dog was holding on to her long tail. It was in his mouth.
Bobby shooed the dog away. "We'll try again," Bobby said.
This time Sundari leaped up in the air. She tugged hard. Oh, how she wanted Bobby to let go of her string!
She gave a big tug. Bobby had to let her go.
"Wheee!" cried Sundari. "Now I can fly as high as I please!"And away she went. She flew up, up, up in the air.

(E)

In Japan, with its high food processing and hygiene management standards, the number of certified space food products has climbed to 56 as of March 2025, thanks to the participation of food manufacturers from across the country. One of these is canned mackerel developed over 14 years by high school students in Fukui Prefecture.
The established Japanese food maker that invented the world's first instant noodles in 1958 developed to be easy to eat even in a space environment, with a thick broth and chunky noodles that keep their shape even when rehydrated in hot water. Fried chicken, a Japanese convenience store standard, is freeze-dried and transformed into space food that boasts the same delicious crispiness.
The Japanese space food menu is quite diverse, with everything from main dishes to sides, sweet treats and beverages that reflect traditional Japanese food culture. Curry rice, Onigiri rice balls, Yakisoba, and stewed hamburger steak offers the comforting flavors of Japanese home cooking.
Providing a moment of relaxing comfort in the depths of space far above the earth, healthy and delicious Japanese space food is very popular with astronauts from other countries, as well.

＊＊＊＊＊